従来型ケージに替わる新しい採卵システムに先手を！

サルメット社 リージョナルビジネスマネージャー／博士 ナッチョ・ナバロ

ケージフリーはアニマルウェルフェアの一部に過ぎない

アニマルウェルフェア（AW）は、ケージフリーを意味するものではありません。卵の生産に関するAWで重要なのは、人間の健康と食品の安全が前提だということです。AWの推進は、最高レベルの防疫対策による食品安全の持続可能性、手頃な価格で誰もが入手できること、そして鶏卵の高い品質の上に成り立ちます。

AWを推進するためのケージフリー運動は、単に鶏をケージから出して採卵しただけでは、AWに配慮したとはいえません。レイヤーのAWは、鶏としての自然な行動が取れる環境を提供し、かつ健康と快適さを最大化することを意味します。AWに適った養鶏スタイルは次のように大別されるといえます。

①アニマルウェルフェア特化型
⇓プレ・エンリッチドケージ
⇓エンリッチドケージ
②ケージがない状態での生産（ケージフリー）
⇓エイビアリーシステム
⇓ネストフロアシステム
⇓バーン（屋内で平飼い。多段式ではない）
⇓フリーレンジ（放し飼い）
⇓オーガニック（放し飼いで有機飼料）※放し飼いは鶏が外に出られる

バタリーケージから新しいシステムにする理由

AW、食の安全、防疫対策、そして収益。これらのバランスが取れていることが重要です。果たしてAW卵の生産は、日本の養鶏業界にとってビジネスチャンスでしょうか。それを判断するには、現在の生産方法の変更を検討しなければならない理由を整理する必要があります。

理由①将来、強制的に政府の規制が入る可能性

ご存知の通り、日本には卵の生産におけるAW規制がまだありません。最近、政府から出た唯一の声明は「レイヤーには巣箱と止まり木を与えるのが望ましい」というもので、現状、日本は工場的畜産や卵の生産の規制変更を進めていないようです。

変化を促すためには、政府が養鶏家に助成金、無利子ローン、補助金などを提供し、生産システム変更への投資を支援する必要があります。

理由②消費者需要：新しいニッチ市場を拓く小売業者の存在

平飼いや放し飼いによる卵のニッチ市場は成長していますが、割合はまだ非常に低いものです。多くの鶏卵生産者はこの成長傾向を捉えるために、費用対効果を計算し、付加価値が利益になると担保できる適切な財務分析が必要になります。

一部の消費者は平飼いや放し飼い卵が他の卵より栄養があり、味が良いと信じ、そんな卵ならもっとお金を払ってもよいと考えています。一方で、生産システムで栄養価は変化しないこと、平飼いや放し飼いだから味が良いのではないこと、黄身の色は餌で調整できることを、別の一部の消費者はすでに知っています。

オーガニック製品の需要は世界中で増加していますが、日本ではまだそれほどではなく、鶏肉と卵は安価で高品質の食材として長年、認識さ

れています。今般の鳥インフルエンザや新型コロナウイルスのような、私たちの健康と食の安全に重大な影響を与える問題が消費者の需要をどう動かすか、今後が注目されます。

理由③フードチェーン企業：加工食品多国籍企業の存在、購買力、コミットメント（ケージフリー卵のみを調達するなど）

世界的に有名な食品および飲料製造メーカー、巨大ファストフードチェーン、ホテルチェーンなど、２０××年までにケージ卵の調達を止めるいった目標を掲げています。しかしまだ現実には、こうした目標を達成した企業はほとんどありません。

理由④非営利のＡＷ運動団体の存在

運動団体の役割は、政府や大規模食品会社にケージフリー卵のみを使用するというコミットメントを進めるよう働きかけることですが、国ごとに異なる課題があります。彼らはまた消費者の考え方に影響を与え、変化を促し、ケージフリー卵の需要を創出するよう取り組んでいます。

そして、①～④の複合要因も生産システム変更の検討理由となります。

鶏卵生産者からすれば、社会やマスコミ、政府に、自分たちの重要な役割をもっと理解してもらいたいと考えるのは当然です。高品質の卵を毎日安定して提供するために、バランスの取れた飼料、清潔な水、適切な換気条件、そして健康で快適な環境を整え、レイヤーを大切に育てているのですから。

筆者は獣医でもあります。レイヤーが鶏舎外へ出ると、野鳥や野生動物との交差汚染の危険性が増すことを案じる一方で、ケージフリー卵がコストと利益を賄える価格で販売できれば、よいビジネスになるとも考えています。しかし、鶏舎を改装、またはシステム移行すれば終わりではないことも十分知っています。最終的な結果はもちろん利益ですが、これは市場の卵価と飼料価格に大きく左右されます。

日本の養鶏事情を鑑みたプレ・エンリッチドケージ

私たちサルメット社は、ドイツの養鶏機器メーカーです。さらに、自社鶏園を経営する卵と鶏肉の生産者であり、卵の生産量はドイツで２番目の規模です。従来のバタリーケージから新しい採卵システムへ移行を考えている方に、同業者としてアドバイスをしたいと思います。

日本にはケージシステムに対する規制がなく、またこれを禁止する兆しもありません。従って、私たちはプレ・エンリッチドケージから始めることをお勧めします。このシステムには、費用を抑えながら必要に応じて簡単にＡＷに完全配慮したエンリッチドケージに変換できるオプションが備わっています。これは規制の法律ができたり、反バタリーケージ卵市場が拡大した場合に対応できるように準備されたシステムです。

サルメットのプレ・エンリッチドシステムＡＧＫ３６００（**図１**）は、ＥＵで規制したレイヤー１羽当たりの飼養スペース７５０㎠以上に対する取り組みの第一歩として設計されました。仕切り板を取り外し、マットの付いた巣箱、止まり木、リッターパイプ、爪研ぎ場などを装着すれば簡単にエンリッチドケージに変換でき、25年以上継続して使われ

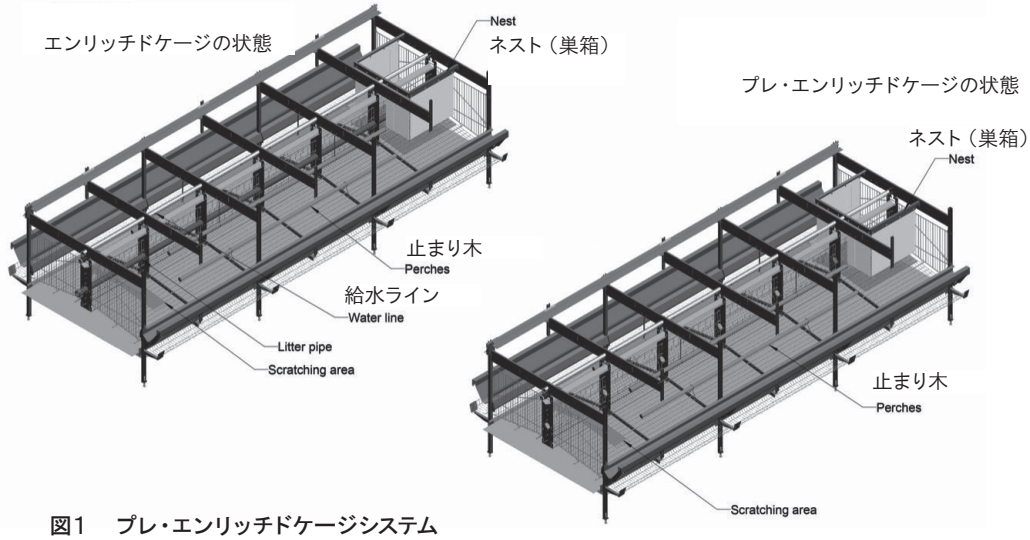

図1　プレ・エンリッチドケージシステム

ている実例もあります。

このシステムは、消費者、小売業者、AW運動家、その他の利害関係者からAWに沿うよう圧力が高まっている中で、ケージを禁止する規制がまだない日本で最適な選択になるでしょう。今後の市場の変化を目論み、AW卵の早期生産は市場シェアの早期獲得、単価の値上げにも繋げられるでしょう。

ケージフリーとは実際どういう飼養なのか

言わずもがな、エンリッチドケージはケージフリーとは見なされません。そのため、販売する卵を初めから「ケージフリー」、「非ケージ」、「平飼い」と謳いたいと考えるなら、エイビアリーまたはネストフロアシステムになります。私たちは、高密度での飼育と、従来型ケージと同程度の生産性能を適える可能性があるエイビアリーシステムを日本ではお勧めします。エイビアリーシステムとは何かをおさらいすると、多段式（多層式）の屋内平飼いです。止まり木を設置した休息エリア、巣箱を設置した産卵エリア、砂浴びのできる運動エリアなどを備えた鶏舎です。

同時にケージフリー卵の生産とはすなわち、次の①～④を意味します。

①鶏1羽当たりの繁殖面積が増加し（密度が低下）、鶏は自由に動き回れるため、エネルギー消費量が多くなり、エネルギー飼料消費量が増える

②ふんやごみなどの感染リスクによる死亡率が高まるといわれており、定期的かつ頻繁な除去作業を要する

③巣外卵は他の鶏にも産み癖をつけないよう、早めに採卵する。目標は全て卵を巣の中に産ませること

④雛からケージフリーで飼育する必要がある

⑤土地と鶏舎建物のコストがかかる

ケージフリー卵の生産には、ケージフリーに慣れているレイヤーの存在が不可欠です。この重要性は長年見過ごされてきたため、かつて、ケージで育てられた雛をケージフリーシステムに導入したEUの養鶏家は多額のコストを負担することになりました。ケージフリーで育てられた雛は飛べるよう訓練されているため、エイビアリーシステムに移されても十分なパフォーマンスを発揮するでしょう。ケージフリー化を躊躇する大きな要因であるコスト対策に関して、私たちは鶏舎の二階層化をお勧めします（**図2**）。

養鶏家の最大の目的は、販売する卵の数を最大にすることです。つまり、巣外卵を産まないよう鶏を管理することは、ケージフリーではとても重要です。それに対して、私たちは長年に亘る設備の調整や、学習、システム設計の改善、管理手法を経て、フリーケージ卵の生産性能をケージと同等まで高めることができました。

EUではケージフリーについても次のように規制しています。一部を紹介します。

・線形給餌では10cm／羽以上
・円形給餌では4cm／羽以上
※多層エイビアリーシステムでは99%がチェーンフィーダーです
・給水は10羽ごとに1ニップル／カップ
・巣箱は120羽以下／㎡
・止まり木は15cm以上幅／羽（止まり鋭い角がなく鶏が快適に止まれる）
・飼育面積は9羽以下／㎡
・スラット面50%、フロア面50%
・18羽以下／㎡、4層以下

国によって規則や規制は違いますが、こうしたEUの厳格な規制をクリアしながら、ケージ生産に匹敵するパフォーマンスを挙げています。

私たちには自社農場を含めた市場

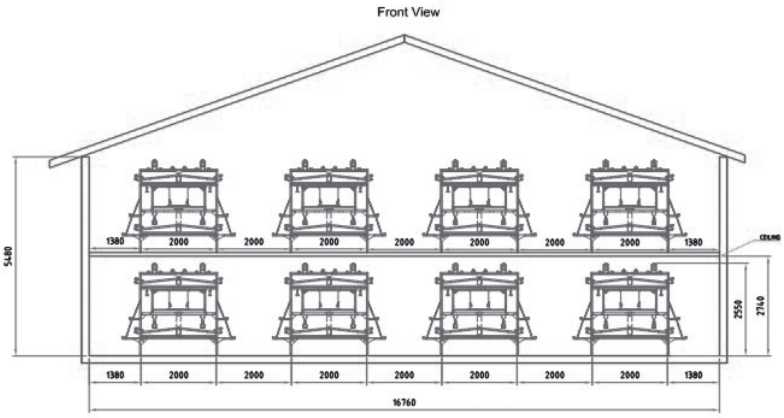

図2　エイビアリーシステムの二階層デザイン

での20年以上の経験があり、現在、弊社のエイビアリーシステム「All in One®」（**写真**）を使用中の養鶏農家には、巣外卵0・2～0・5％、ピーク産卵率97％以上の達成を支援しています。

おわりに

もし皆さんがエンリッチドケージの採用を検討されている場合は、今後20年以内に大きな規制変更がないことが前提となります。また、エイビアリーシステムの採用を検討されている場合には、経験豊富な養鶏場からの学びや、管理者、スタッフを含めたトレーニングを適切に提供している設備サプライヤーをしっかりと選ぶ必要があります。

ＡＷへの理解は、人間の健康と動物の健康は環境を通じて相互に依存し合っているという信念に基づいたものであり、私たちには私たちの未来の世代により良い環境を引き継ぐ責任があります。一方で、栄養価も高く、高品質で安価な動物性タンパク質である卵は、誰にとっても安全で、健康的で、入手しやすい手頃な価格で提供し続けなければならないことも事実です。これを持続可能にするためには養鶏場を適切に管理し、最適な投資を選択し、関係者全員のコミットメントが必要になります。私たちは卵の生産においてどのようなシステムを使おうとも常に最高レベルでの防疫体制と品質基準を維持しなければなりません。

サルメットでは養鶏に関わる皆さんに、自社が運営する農場内でのより実践的なトレーニングと技術的サポートを提供することで、ＡＷに配慮した代替システムへの移行に向けの戦略的ガイドラインをいつでも提供しています。ご質問などありましたら、左記までご連絡をください。

ＴＥＬ　０３－５２８１－１５３２
メール　salmet@co.jp（担当：打矢（うちや））
筆者　Dr. Nacho Navarro Regional Business Manager
メール　nacho.navarro@salmet.de

サルメット社のマルチ・エイビアリーシステム（上：導入前　下：導入後）